

わくわくする人との出会い

一人と防災未来センターのボランティア活動

川勝博史(登録会員)

2018(平成30)年4月より、人と防災未来センター2階のフロアで月3回程度活動してきました。このフロアは、来館者の方が映像や被害のデータによって学習をする部分とゲーム感覚で災害・防災について学習したり、実験を見たりする部分とからなり、低年齢の子どもたちから、高齢者まで、幅広い来館者に対応した展示になっています。

この施設自体が、阪神淡路大震災の経験と教訓から生まれた深い意味を持つものですが、その中でのボランティア活動もまた、震災の有形・無形の遺産を伝える活動のお手伝いとして大変重要です。国の内外から来られる多くの来館者の方々との交流はとても充実したものとなっています。国内からは、小学、中学、高校、大学と若い人たちも多く、楽しく活動しています。例えば、日本地図の各地方を組み立てるジグソーパズルがあるのですが、それにとっても興味を持って、全てを素早く仕上げた小学3年生の男の子がいて驚きました。そばにいたお母さんは、「鉄道の関心から地理が好きになったようです」と、おっしゃっていました。



海外からも、たくさんの方々が旅行の途中に立ち寄られます。私の活動日には、アジアでは、中国、台湾、ベトナム、韓国、インドネシア、インド、シンガポール、タイ、マレーシアなど、南北アメリカはもちろん、ヨーロッパでは、イギリス、フランス、ドイツ、ポーランド、ベルギー、オランダの方々、そして南アフリカの方々もお迎えました。また、災害に備えての視察でフィンランドの方々も見えました。

このように、世界中の方々と出会うことができるのが、このセンターでのボランティア活動の大きな魅力です。自分の活動日に世界のどこから来館者があるのか、大変楽しみです。どの国から来られても高い防災意識を持った人は少なくないということがよく分かります。

印象に残っている海外の来館者としては、個人旅行でアメリカ(確かオハイオ州でしたか)から来られた男性が、サイクロンの被害について話しておられたのを覚えています。この災害に備えて、家の下にシェルターを作っているとのこと。さもありがた、と納得しました。また、カナダ出身で、今早稲田大学に在籍しているという男性は、日本のことが大好きで、その言葉や文化について、あらゆることを知りたいと話されていました。このようなお話を聞くのは、大変嬉しいことです。



中央筆者と来館者ご夫妻

これら以外にも、活動する中で得られるものは、いろいろあります。ボランティア1年目は、施設案内として、この施設全体の学習も兼ねて、活動させていただきました。今年から、英語で案内を担当することになりました。英語についても、災害についても、更に研鑽を重ねて、より楽しく活動できるようにしていきたいと思います。